

課題整理シートに対する各部会における意見まとめ

シート	項目	生涯発達支援部会	相談支援部会	社会参加・就労支援部会
基本目標 1	(1) 広報・啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> 障がいへの理解については、体験が重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの理解とともに、地域の中でお互いの顔が見える支援が必要。 町会に民生委員がいるが、欠員をなくすことが第一に必要。 災害時のことも民生委員が把握しているからできることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害者差別解消法について認知度が低い。 理解促進は簡単ではない。
			<ul style="list-style-type: none"> 発症は思春期と重なり分らなかった。 教育活動は早期発見につながる。 家庭、学校、地域でも勉強できる機会が必要。 警察が障害者のことを理解していない。 通報しても対応してもらえなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育の中で知識を得ても、生活の中で接点を持ち体験する機会が乏しい
			<ul style="list-style-type: none"> 福祉教育というが、先生達も理解が難しい。 子ども達が大きくなると理解が広がる 	<ul style="list-style-type: none"> 健全者と当事者が交わる空間、実体験が共生社会の実現において重要
基本目標 2	(1) 障がい児保育・療育・教育	<ul style="list-style-type: none"> 連携する部門として「医療」もあったほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害はすぐにわかる障害とある程度経ってからわかる障害があり、それぞれ違う。 	<ul style="list-style-type: none"> 共に教育を受けることが望ましいとされる一方で、分離教育を支持する意見も目立つ。
		<ul style="list-style-type: none"> 仕事が続かない理由として、能力よりも生活習慣が馴染まないことが多いが、小さいころから身に着けてあげればできることが多い。 文言の追加としては、「将来の社会参加を見据えた」などが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の療育は個別に違うので難しい。 通所、訪問、医ケア児など社会情勢も変わってきている。 子供のサービスの利用者負担も親の収入によって違う。 	<ul style="list-style-type: none"> 分断されている現状を段階的に変えていくべき
			<ul style="list-style-type: none"> 子供への支援は親もセットであるため、親への支援も入れたほうがよい。 	

シート	項目	生涯発達支援部会	相談支援部会	社会参加・就労支援部会
基本目標 2	(2) 社会参加の促進	<ul style="list-style-type: none"> 職場で本人のルーティンが受け入れられないことで仕事が続かない→周囲の理解が必要。 職場（保育園）で障害者の実習の受入を行った。しっかり働いてくれて、いいことだと体感した。 	<ul style="list-style-type: none"> 就労の受け皿と対策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済的自立に固執せず、社会との接点を持つことが重要。
				<ul style="list-style-type: none"> 障がい者が提供する役務や製品について、「障がい者だから」という前提ではなく一般的に触れる機会を増やせば、認められる価値をもつこともあり、工賃向上の可能性につながる。
				<ul style="list-style-type: none"> これまでサービス・支援にまったくつながっていなかった人、社会との接点がほとんどなかった人に対し、地域移行・支援といっても地域の体制が用意できていない。
				<ul style="list-style-type: none"> その人のできることで社会との接点を持つことを「自立」のあり方として認識したい。
基本目標 3	(1) 居宅生活支援			
	(2) 施設サービス			
	(3) 相談支援・情報提供体制	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談事業所がたりない。セルフプランでも困らないサポートが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉総合相談窓口は知られていないため周知が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスはあっても手順をサポートする者がいないケースがある。
			<ul style="list-style-type: none"> 問題が発生するのは昼だけではない。土日、夜の支援体制を構築すべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 申請手続の支援の充実と、受理する側が手続しやすい制度の整備、双方の充実が重要。
	(4) 保健・医療		<ul style="list-style-type: none"> 災害時の保険・医療・個々の障害者に対する災害時対応の検討必要。 	
	(5) 経済的支援			
(6) サービス利用に結びついていない人への支援				

シート	項目	生涯発達支援部会	相談支援部会	社会参加・就労支援部会
基本目標4	(1) 自由な移動の確保	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション手段の理解（支援方法、ツールの使い方など）が必要。 		
	(2) 住まいの確保・整備	<ul style="list-style-type: none"> 選択できるように整備する。 		<ul style="list-style-type: none"> ただ住居を確保するのではなく、当事者の生活が持続可能な環境を整備した上で地域に戻ることが重要。
	(3) 心の健康			
	※ 追加課題 (災害対策)	<ul style="list-style-type: none"> 特性への配慮が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 当事者から積極的に提案することが大事。当事者でないとわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対策など、計画やマニュアルは重要だが、実際にはそのとおりに進まないこともあり、現場の知恵の出しあいとなるが、マニュアルが不要ということではなく、非常時の指揮命令系統の確認等、現場が動くための安心材料になる。
		<ul style="list-style-type: none"> 地域全体：障害者関係団体と連携して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時は聞こえない立場では情報が必要。しかし手話通訳者も被災することも考えられる。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 医療ケアの人を体育館では難しく、家が被災しなければ家にいるしかない。 	